

果房被覆資材と爆音機の併用によるブドウの鳥獣害対策

2種類の対策を組み合わせることで鳥獣被害を大幅減へ！

1. 使用した資材及び試験方法



品 種：ピオーネ（トンネル栽培、H字型短梢せん定樹）
被覆資材：袋状ネット（果房を樹列単位で被覆）
青ネット（果房を個別に被覆）
爆音機：最小音量に設定し、夜間のみ稼働

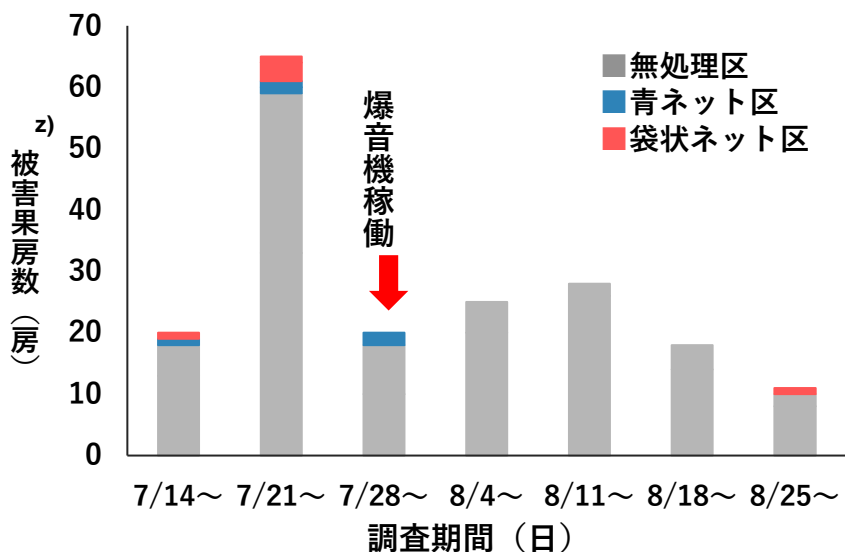
3. 収穫時点（8月27日）における被害果房率

試験区	着果数 (房)	被害果房 (房)	被害果房率 (%)
無処理区	70	65	93.0
青ネット区	79	5	6.3
袋状ネット区	70	6	8.6

無処理（無被覆）の場合、爆音機を稼働させても被害果房率は9割を超え、収穫は皆無となった。

果房被覆資材と爆音機の併用により、被害果房率を1割以下にまで抑え込むことが可能に。

2. 被害果房数の推移



2) ネット被覆の期間中

4. まとめ

- ① 果房被覆資材と爆音機の併用することで、鳥獣被害を大きく減少させることが可能である。
- ② 果房被覆資材である個別被覆の青ネット及び樹列被覆の袋状ネットは、概ね同程度の被害軽減効果が認められた。
- ③ 資材を被覆しても果実品質に明らかな差は認められなかった。（データ省略）

5. 爆音機使用上の注意

同じ音量や間隔で使用し続けると爆音に対する「慣れ」が生じ、忌避効果が弱まってしまいます。このため、近隣住民の迷惑とならない範囲で、爆音機の音量や間隔等の各種設定を数日おきに変更するなど、有害鳥獣に慣れさせない工夫が必要となる。